



視察報告

立憲・国民・無所属の会さいたま市議団は、さいたま市への政策提言を行うため、

政務活動費を使用した視察を適宜行なっています。

視察を通じ、どんな知見が得られ、

それをさいたま市にどのように反映していくかについて市民の皆様への説明責任を果たすべく、

本ホームページ上で視察報告を公表します。

「会派合流・会派名変更前のデータも公表しています。」

2010/06/03

【民主党 さいたま市議団】 岩手県議会視察報告

岩手県議会視察報告

【視察日】 2010年5月10日

【場所】 岩手県議会

【対応者】 岩手県議会民主党会派所属議員6名（三浦陽子氏、関根敏伸氏、高橋昌造氏、小田島峰雄氏、高橋元氏、岩淵誠氏）

【参加者】 高木、田口（政務調査員）

【テーマ】 ローカルマニフェストの作成と実践、検証、政策条例等の関連について

【視察内容】 議会マニフェストの作成からこれまでの取り組みについて、概要を説明いただいた上で、質疑応答を行った。

【概要】

*マニフェストの作成にあたっては、各常任委員会から1名の5名の現職議員を中心に各分野の項目を出し合う形で作り、立候補予定者との情報共有を数回にわたって行ったうえで、最終的に市長（民主系・同時期選挙）マニフェストとのすり合わせを行い、発表に至った。

*第1回のローカルマニフェスト大賞は、民主党会派のマニフェストではなく、県議会の主要3会派がそろってマニフェストを掲げて選挙を戦ったことに対して受賞したものであった。しかし、その後の、民主党会派がマニフェスト実現に向けて行った各種取り組みが第3回のノミネートという形で評価されている。

*マニフェスト実行については、毎議会ごとに実現に向けどう取り組むか検討している。

*県連内にマニフェスト実現化推進委員会（略称：マニフェスト委員会）を設置し、26回に及ぶ会合を重ねている。この中の取り組みは、取り組み方の道筋を話しあうと同時に、現場視察や県民との意見交換の場の設定なども行っている。「移動マニフェスト委員会」といった取り組みも行っている。

*マニフェスト実現に向けた取り組みは、毎定例会の招集日と最終日に、ブリーフィングを県政記者クラブにて行っており、マニフェスト関連の現場視察などもマスコミ各社への情報提供を行っている。マニフェストの中間検証の報告は、地元紙「岩手日報」に一面広告の形で（約200万円、各自の政調費より）掲載し、県民への情報提供も行っている。

*マニフェストには、国政の制度変更がなければ実現しない項目も含まれているが、これについては、積極的に「意見書」の形で取り組んでいる。全会派一致でなければ提出できないというわけではないので、本会議場での討論という形で、会派の意見を効果的に主張する手法として機能させている。どのテーマをどのタイミングでぶつけるかは、戦略的に検討している。

*政策条例については、議会基本条例のように、各会派のマニフェストにあったため、最初から全会派で取り組もうということになったものもあれば、民主会派が「研究会」の形で他会派に声をかけて数名のメンバーで進めているものもある。他会派の呼びかけで実現している条例もある。（総じて、岩手県議会は、委員会の調査活動や会派を超えた政策条例づくりなどが活発に行われている）

*現在、最終評価に向け、外部評価を進めている最中である。外部委員8名は地元NPOの協力を得ながら選定したとのことだが、この地元NPOは、中間支援組織として様々な団体などとのつながりもある上、知事マニフェストの作成に関わった専門知識を持つ人もいるなどの経験豊富なNPOである。

【感想】

*マニフェストを実現する手法を立体的に組み立てているところは、まさに学ぶべきところと思った。

*報道との連携で、常に県民に知ってもらおうという視点を忘れないことというのは、参考になった。

*やはり会派構成が異なるため、そのままさいたま市に持ちこんでも、政策条例や意見書などは実施に移せないところがあるが、その取り組みの精神は学べる。